

[2] 日野市 都市農業振興課 から

日野市は、平成10年に「農業基本条例」を制定しました。その中では、市民・農業者・市それぞれの責務を明確にし、それぞれに協力・連携しながら農業を「永続的に育成していく」ことを掲げています。

日野市の耕地面積は、157ha(平成 28.12.28 現在)、農家戸数は301戸(平成 28.12.28 現在)。主な農産物は、トマトや小松菜、果樹ではナシ、ブドウなどがあげられます。少し市内を歩いてもらえばわかりますが、一団の農地が存在している場所のごくわずかで、多くの農地が住宅地と隣り合って散在しており、営農環境は決してよいとは言えません。このような状況は、大都市に隣接して「都市農業」を展開している地域ではごく普通の光景です。

日野市でも都市農業の特性を生かして多様な展開を図っており、「都市農業の特性＝消費者が身近にいること」を生かした個人直売・即売が主流で、多くの農業者が個人直売・即売を行っています。その他、市内の全小中学校で学校給食に地元野菜を取り入れています。市の取り組みの中には、今回レシピ集に、参加いたしました「日野市女性農業者の会・みちくさ会」への支援も平成17年7月から行っています。

今回の、レシピ集は日野産農産物を、各家庭でたくさん取り入れ、親しんでもらえるように、考えられたメニューです。

どうぞ、楽しみながら

日野産農産物を、美味しく召し上がってください！

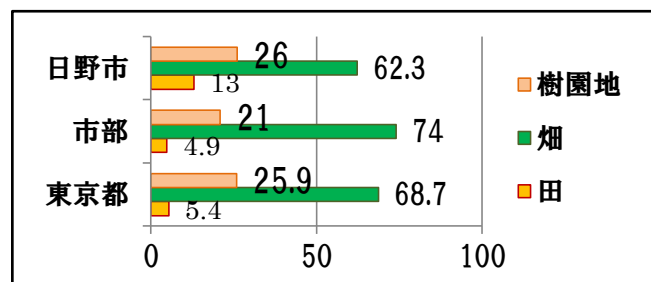
日野市の農産物

世界農林業センサス 2015 から

(1) 経営耕地の状況

日野市の経営耕地は、畑が最も多く62.3%で、次いで樹園地が26%、田13%となっています。

市部、東京都と比較すると、畑の割合は日野市が最も低く、樹園地の割合は日野市が最も高くなっています。

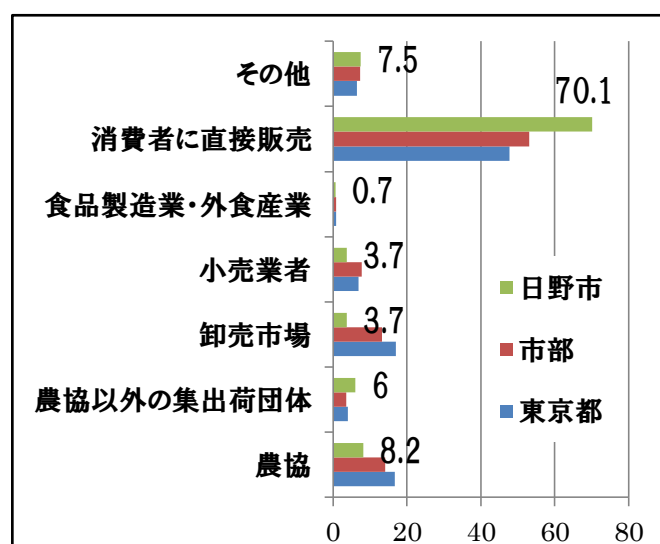


(2) 農産物の出荷先

右図は、農産物の販売金額1位の出荷先別経営体数を示しています。

日野市は、“消費者に直接販売”が最も多く70.1%で、市部及び東京都と比較しても最も高い割合となっています。日野市では学校給食に地元野菜が取り入れられています。

次いで、“農協”、“農協以外の集出荷団体”、“卸売市場”、“小売業者”の順となっています。



日野市の農業から

(日野市の学校給食における農産物供給事業)

(3) 日野市学校給食使用食材の主な季節(平成27年度出荷量)

右表は、学校給食用の食材の取扱量が1位から3位までの月を ■ で示しています。日野産の野菜・果物の旬の時期が分かります。

トマト、かぼちゃ、なす、きゅうり等は主に6月、7月、にんじん、大根、白菜は主に11月、12月、1月が旬の時期となります。

果物も季節によって使用されるものが異なり、種々栽培されています。

野菜・果物	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
トマト	■	■	■							
かぼちゃ		■	■							
なす			■	■						
とうもろこし		■	■							
きゅうり	■	■	■							
じゃがいも			■	■			■			
たまねぎ		■	■							
キャベツ	■					■	■			
にんじん						■	■	■		
大根						■	■	■		
白菜							■	■	■	
ほうれん草						■	■	■		
ブロッコリー						■	■			
さつまい					■	■	■			
梨				■	■					
みかん						■				
いちご								■	■	
柿					■					
冷凍ブルーベリー		■		■	■					